

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる、
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より

信仰のまなざしをもって現実をみつめる



社会活動センターシナピスの職員である山田直保子^{な お こ}さんはある日突然、難病に襲われました。
「車イス生活となった私に対する社会の荒波は想像以上だった」と話すナオコの体験とは……。

難病と告げられる

難民がお年寄りをもてなす「シナピスホーム」発案者のナオコは、2020年の活動開始3週間後のクリスマス夜の夜に原因不明の高熱に見舞われ、年明けまで2週間寝込んでしまった。1月中旬に職場復帰をしたが、車を運転していると足に力が入らずあわや事故を起こしそうになったり、コップすら持てなくなり、足にも手にも力が入らなくなった。精密検査の結果、ギランバレー症候群だと診断された。この病は、現在の手足の脱力が回復しないまま後遺症として残る可能性が20〜50%だとされる難病だ。ナオコ自身が「天職」と誇りにする介護職には「もう就けない」と医師に告げられた。

泣く

3月7日に退院した。院内ではすり足で歩いていたが、アスファルトの道では歩けない。家中の物は、腕の上がらないナオコにとつて全てが高い位置にあった。タオル一つ取れない。友人が洗面用具や食器などを低い場所に置いてくれた。それでも包丁が持てない、冷蔵庫の物が取れない、ペットボトルの蓋が開けられない、シャワーヘッドが持てない、洗髪ができない、髪をとけない。紙コップにわずかな水を入れてストローを使い、プラスチックの匙を使った。でも匙にカレイライスをのせると重くて持てない。何もかもできない。ナオコは叫び大声

で泣いた。涙が枯れてもまた泣いた。泣いても泣いてもどうにもならない。

ナオコは顔を上げた。シナピスホームへ行くにはどうしたらよいか。人に送迎してもらわずに働く方法を考えて。電動車椅子を使うことにした。車椅子は思いきりお洒落なものを選んだ。初日に使用法を学び、二日目には看護師の友に付き添ってもらって自宅から地下鉄に乗ってシナピスホームまで予行演習した。「行ける」と確信した。

社会の荒波に遭う

道で不慣れた車椅子の操作にもたついていたと男が「ねえちゃん、どないしたんや」と近寄ってきた。駅のホームでも男が声をかけてきた。「ねえちゃん大丈夫か」「家どこや」と背中を触り始めた。「触るな、○○！」悪態をついたら「なんや、助けたる思たの

に」と容姿を侮辱する言葉を吐き捨てて去っていった。ナオコはホームで激しく泣いた。電車の中でも涙が止まらなかった。電車の中で男が近寄り「大丈夫ですか」と聞いてきた。無視しても男は車椅子のそばに立ちは

だかった。「家まで送ったるか」と背中を触ってきた。「大丈夫です」と睨むと男は舌打ちして去っていった。駅に到着し、誰もいないエレベーターへの通路を行くと男が近寄ってきた。「家まで送ったるわ」ナオコが「結構です」というと舌打ちして去っていった。エレベーターを待つていると別の男がやってきてそばに立った。密室で痴漢に遭う恐怖でナオコは女子トイレに逃げた。10分ほどすると、女性がエレベーターへ行くのが見えたので、急いでエレベーターへ車椅子を動かし一緒に乗り込んだ。

難民たちに再会する

ナオコは歯を食いしばってシナピスホームへの道のりを辿った。すると、遠い道の向こうから難民たちが「ナオコさ〜ん」と声をあげて、大きな手をふりまわして一目散に駆け寄ってきた。



介護福祉士。訪問介護事業を運営していた。2020年11月よりシナピスで勤務。「難民移住者がもてなすお年寄り食堂」を発案し、同年12月大阪市内に「シナピスホーム」を開設。

た。その姿を見たナオコは声をしゃくりあげて泣いた。彼らは次々にナオコにハグをした。ホームに到着すると待っていた他の人たちが次々にハグし、ナオコは号泣した。ナオコが道中で体験したことを話すと、難民たちは激怒し「外出時にはスタンガンを持って、近寄ってきたら撃ち殺すのがよい」「いや、催涙弾を投げるのがよい」と言い、ナオコは「日本では認められてへんねん」と笑った。

サンングラスをかける

翌日、ナオコは外出時にはサンングラスをかけ、杖を足に挟みながら車椅子を操作した。それが手足に力の入らないナオコの精いっぱい、の防御態勢だった。そんないでたちで電動車椅子を駆使すると、言い寄る男がいなくなった。



● ● ●

日常生活の営みや社会の中で、「不正義」や「平和でないこと」を経験したり、また目の前で見たら聞いたことが、私たちがどうすればよいのでしょうか。福音の光に照らされている私たち一人ひとりが「すべてのいのちを守るために」勇気をもって一歩踏み出し、ともに歩むことができますように。

大会まであと7か月

第41回日本カトリック正義と平和全国集会
2021大阪大会

すべてのいのちを守ろう

～誰も置き去りにしない世界に向けて
No one will be left behind

2021年
11月22日(月)・23日(火・祝)

会場 大阪カテドラル聖マリア大聖堂 他

主催 カトリック大阪大司教区
共催 日本カトリック正義と平和協議会

■カトリック正義と平和 大阪大会事務局
TEL 06-6942-1784 FAX 06-6920-2203 E-mail jptaikai@osaka.catholic.jp

▶▶ みんなで参加しよう! ◀◀

大会事務局より

今回の大会は対面開催を予定していましたが、コロナウイルス感染症の影響に鑑み、現時点では対策を完全に整えたくて、対面とWebの両方（ハイブリッド形式）で進めていきます。また、感染状況によってはWebのみでの開催も検討中です。
分科会開催を検討中の方、ご不明な点がある方は、大会事務局までご連絡ください。

▶日本カトリック正義と平和大阪大会事務局
☎ 06-0692-1784 FAX: 06-6920-2203
E-mail: jptaikai@osaka.catholic.jp



申込など詳しくは JP 大阪大会事務局ページをご覧ください。
http://www.osaka.catholic.jp/no_side/jptaikai2021.html
☎ 06-6942-1784

分科会をやってみたい!! けど、 どのようにしたらいいの?

いろんな企画があると面白いですね。
講演、映画上映会、スタディーツアー、ディベート、パネルディスカッション、ワークショップ、劇……などなど。やってみたいけど、どのようにしたらいいか分からないという方は一緒に考えましょう!
◀◀申込み〆切は 5 月 20 日まで◀◀

分科会・特別プログラムに 参加したい!!

分科会や特別プログラムが決定したら、教区ホームページや書面で後日ご案内します。関心のある分科会をみつけたら、お申し込みください。
なお、分科会はいくつかの会場で行います。
場所も合わせてご確認ください。